

SSC
 埼玉県障害者社会参加 推進
 センターだより
 令和4年12月30日 135号

編集
 埼玉県障害者社会参加推進センター
 〒330-8522 さいたま市浦和区大原3-10-1
 県障害者交流センター内
 TEL 048-825-0707
 FAX 048-825-3070
 メールアドレス ssk080321@bz03.plala.or.jp
 HPアドレス http://saitama-shokyo.org/info/
 発行 NPO法人埼玉障害者センター
 〒330-8522 さいたま市浦和区大原3-10-1
 頒価 一部100円(会費に含まれます)
 発行日 10日・20日・30日



「『あの人に』会いたい! 『あの人と』話したい!!」守ろう平和な社会 進めよう! 豊かな社会福祉」をテーマに、第43回埼玉障害者まつりは、10月9日(日) 埼玉県障害者交流センターを会場に、1200人が集いました。

3年ぶりの笑顔に会えた

第43回

埼玉障害者まつり



障害者の生活と権利を守る埼玉県民連絡協議会

事務局長 若山 孝之

わかやま たかゆき

しかし、2年間のオンライン

中心のまつりから、リアルに移

すということ、準備は様々の

困難にぶつかりました。まだ、

感染の数が減ってきているとは

言え、いつ急カーブで上がるか

わかりませんでした。準備する

側にも、コロナへの警戒心があ

りました。参加の呼びかけもど

こまで広めるか、感染を広げて

しまうのではないか。準備の実

行委員会も5、6人での会議で

した。会場となる交流センター

も所長、副所長は、3年前まで

のまつりを知りません。駐車場

にプロレスリングを立てるなど、

イメージの共有も必要でした。

大道芸には依頼せず、模擬店

も申し込みはわずか。屋外中心

で、感染対策を結果的に図った

ことになりました。

合わせて、2週間ほど前から、

雨模様の天気予報、それが、曇

になったり、雨になったり、直

前から、夕方からの雨に変わり、

予定通りの計画で進めることにな

りました。

次に、何人の来客が見込める

か、1500人規模を想定し、

準備をしてきました。宣伝も十

分に広まったとは言えず、20

0人、300人かなとも思いま

した。主食が少ない、模擬店で

す。余るか足りなくなるかも予

想がつかない状態でした。

そのような、気持ちの揺らぎ

の中、当日を迎えることになり

ました。



ある意味、杞憂に終わったま

つりになりました。

まつりのプロレスボランティア

アから今や本物のレフリーも務

めるようになった人がいて、彼

の仲介で、プロレスを呼ぶことができませんでした。「みちのくプロレス」を紹介していただきました。岩手県は第一波の時、感染者ゼロ人が続きました。そのため、感染者を出さないために、より一層の対策が求められたと聞きました。「みちのくプロレス」プラズ女性レスラー二人が加わるというチーム編成でした。参加者を大いに盛り上げてくれました。さすが、「プロ」と名が付き、見る人を楽しませる「プロ」でした。



ベリーダンスの方たちに、人が集まらない展示スペース前

踊ってもらいました。踊りの輪の中に入り、一緒に踊るなど思いがけない交流の場面も作れました。中央ステージでは、「ドンドンつながれ太鼓サークル」は、昨年はホールで、今回は、3年ぶりの外での演奏、気持ちよく和太鼓の音を響かせ、お母さん方を中心に、日ごろの練習の成果発表しました。歌声喫茶ともしびのうたごえ、マスク越しになりましたが、参加者も一緒に歌いました。養護学校卒業生のOBのマイスマイル、本当に久しぶりです。バンド演奏を聞かせてもらいました。続々と出し物が続きました。

体育館では、昨年より、参加者も増え、歓声も上がり、スポーツレク、パラスポーツの体験やゲームを楽しみました。

2階では「平和と戦争展」の展示、ウクライナの問題を取り上げることが大切と借り出しにない、パネルを購入し、展示しました。



三団体ほどが参加し、美術展も開かれました。三回連続の参加の点描絵画の石井氏は、埼玉新聞に取り上げられるなど活動の場を広げています。布の袋に描くなど新しい作品も披露しました。購入される人もいたようです。

ホールで行われたシンポジウムは、テーマが「障害者と平和」でした。戦争体験のある肢体障害の方から、「『戦争の役に立たない者は非国民なんですよ

ね。障害者は米を食っているだけで、いわゆる何の役にも立たないということでは非国民なんですよね。』と力を込めた発言がありました。また、自身の出身校である肢体不自由校が疎開した当時の話しを資料を基にした発言、核兵器廃絶までたかかう埼玉県原爆被害者協議会、日本軍慰安婦問題など活動をしている埼玉アジア・アフリカ・ラテンアメリカ連帯委員会の方々の報告もありました。ウクライナのことに重ね合わせ、「戦争は絶対やってはいけない」をアピールするシンポジウムでした。



模擬店は、数は少なかったのですが、室内を希望する団体も

あったのですが、全部、外に集中しました。それが功を奏した感じでした。焼き鳥のいいにおいが雰囲気盛り上げました。それぞれのお店、チヂミ、シフォンケーキ、パンケーキ、サンドウィッチ、プリン、パスタ、クッキー、パウンドケーキ、等々。売れ行きも上々のようでした。床屋さんがいったり、どんぐりアートの作品などみんなを楽しませてくれました。お店をぶらりと回りながら、気に行つたものはあるか、探すのもお祭りの楽しみのようです。楽しかったという感想の中にそれも含まれていました。まつりの恒例になっているマッサージ、「今回も、あの人にやってもらった」とか毎年のリピーターや一日に何回も施術を受ける人がいたようです。

「普段の行いがよいせいかなとも思いますが、この開会の言葉通り、片付けが終了と同時に降り始めました。楽しかったとその後の感想でも言われ「来年も」の声に、うれしい気持ちと同時に、これから本当に続けられるのかという思いが複雑に交差しました。少人数の準備であり、中心にかかわっているメンバーも、毎年年齢が上がり、いつまでかわれるかということもあります。始めたころのボランティアの若者も、「還暦です」と話していました。財政的にも、コロナ禍での、2年間のブランクで、協賛団体は減り、カンパも減少しています。43回という歴史を踏まえつつ、「まつり」をどうするか、みなさんとともに考えたいと思います。

あつたのですが、全部、外に集中しました。それが功を奏した感じがしました。焼き鳥のいいにおいが雰囲気盛り上げました。それぞれのお店、チヂミ、シフォンケーキ、パンケーキ、サンドウィッチ、プリン、パスタ、クッキー、パウンドケーキ、等々。売れ行きも上々のようでした。床屋さんがいったり、どんぐりアートの作品などみんなを楽しませてくれました。お店をぶらりと回りながら、気に行つたものはあるか、探すのもお祭りの楽しみのようです。楽しかったという感想の中にそれも含まれていました。まつりの恒例になっているマッサージ、「今回も、あの人にやってもらった」とか毎年のリピーターや一日に何回も施術を受ける人がいたようです。

あつたのですが、全部、外に集中しました。それが功を奏した感じがしました。焼き鳥のいいにおいが雰囲気盛り上げました。それぞれのお店、チヂミ、シフォンケーキ、パンケーキ、サンドウィッチ、プリン、パスタ、クッキー、パウンドケーキ、等々。売れ行きも上々のようでした。床屋さんがいったり、どんぐりアートの作品などみんなを楽しませてくれました。お店をぶらりと回りながら、気に行つたものはあるか、探すのもお祭りの楽しみのようです。楽しかったという感想の中にそれも含まれていました。まつりの恒例になっているマッサージ、「今回も、あの人にやってもらった」とか毎年のリピーターや一日に何回も施術を受ける人がいたようです。

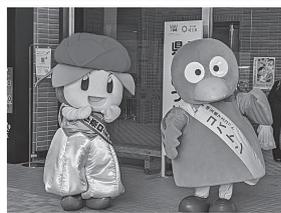
令和4年度 みんな幸せ・共生社会県民のつどい開催報告

NPO法人埼玉県障害者協議会

事務局

郷古 珠美

令和4年度障害者週間記念事業「みんな幸せ・共生社会県民のつどい」が、12月4日(日)、伊奈町にある「県民活動総合センター」にて開催されました。



この事業は、障害者に対する県民の理解を深め、共生の心を育む地域づくりを推進することを目的として毎年開催されています。

式典では令和4年度「心の輪



を広げる体験作文」入賞者・障害者週間記念ポスター」の入賞者へそれぞれ賞状が授与され、式典後には2020パラリンピック車椅子バスケットボール日本代表小田島理恵氏の講演会や、盲導犬デモンストラーションが開催され、伊奈町近隣の特別支援学校や中学校・高校の生徒たちによる、吹奏楽や学校紹介の動画などが上映されました。

また、センターの内モールには障害者作業所などによる物品販売、障害者絵画展・特別支援学校・特別支援学級作品展の鮮やかな絵や工作作品が展示され、来場された方の目を楽しませていました。

地区研修会

川越医療講習会報告

日本オストミー協会 埼玉県支部 葛西 誠

9月24日(土)、川越市ウエス

夕川越にて、日本オストミー協会埼玉県支部の医療講習会を埼玉県障害者協議会と共催で開催いたしました。テーマは、木坂

京子先生(赤心堂病院 管理栄養士)による「コロストミーの

食事」及び山田佐織先生(赤心堂病院 皮膚・排泄ケア認定看護師)の「ストーマケア」です。

会場には、46名の会員、医療関係者が参加され、活発な質疑応答もあり無事開催することができました。賛助会員の装具業者も6社の方に参加いただき製品の展示説明会が行われました。

共催者である埼玉県障害者協議会代表理事田中一様から、挨拶を戴きました。



コロナ疲れ、見えない不安と恐怖のなか、外の空気を吸って、人と話をして、それが幸せな人生、何も制限されない日々の幸せを感じます。オストミー協会の皆様も普段から大変な思いをされているながら、活動に励んでいられるのを聞き及んでいます。今日は二つのテーマでの講演を皆さんと一緒に楽しみに聞きたいと思えます。

「コロストミーの食事」について、



1. 腸閉塞予防の食事については、消化の良い物を食べることは基本です。調理方法の工夫や、よく噛み、噛み砕くことで、食事の幅を広げていくことができます。また、食べ過ぎないように量の調整も必要です。外食や中食も可能ですが、おなかが張るときはメニュー選びに注意しましょう。

2. ガスが出ないような食事については、特に外出の予定があるときは、ガスやにおいが出ないような食事をし、ガスやにおいが出にくい食事でカバーしていきます。空気を飲み込まないようにする食べ方の工夫もしましょう。

3. 高齢者の食事については、フレイル(虚弱)は予防ができます。健康寿命を延ばせるよう、食事・運動・社会参加をしましょう。食事は、特にたんぱ

く質を意識して摂りましょう。運動はウォーキングと筋力トレーニングを取り入れましょう。

「ストーマケア」については、スキントラブル時の、対応については、
☆ 自分で対応できるところは、対応してみる
☆ ストーマ外来に相談、受診
☆ トラブルになったら早めに受診し、対応ができれば早く治癒することができます。
以上の3点に集約されます。



生活訓練事業

「はじめての点字体験」

を開催しました

特定非営利活動法人 埼玉県障害者協議会事務局

おおた やすこ
太田 泰子

令和 4 年 10 月 13 日（木）、10 月 20 日（木）の 2 回にわたり、令和 4 年度社会参加推進センター事業生活訓練事業として体験会「はじめての点字体験」を開催いたしました。

講師は点字ボランティアサークル「ほたるの会」の皆様にご指導いただきました。



全 2 回のプログラムのうち、10 月 13 日に開催した第 1 回目は「点字でひらがな 50 音を書いてみよう」を、10 月 20 日は「点字で数字を書いてみよう」を体験しました。

日頃「ほたるの会」の講師の皆様は、視力障害の方の為に各種会議資料や講習会資料の点字翻訳をボランティア活動の一環

として点字作成をしてくださっておりま

第 1 回目は点字の成り立ち、

点字の構成、特徴を資料等を使い、実践的には白板に磁石を用いた文字の打ち方を各自に配られた点字器を使い、ひらがなの打ち方を未経験者にも分かりやすく丁寧に教えていただきました。2 回目は参加者もだいぶリラックスした状態で、各自出題さ



れた問題に試行錯誤しながらお互いに教えあい講師の方々にも質問をするなどをして熱が入っていました。

普段文字を書くことは難くこなしていても、点字に置き換えると非常に頭を使うので、頭のトレーニングにも良い刺激になったので、これからも続けたいと個人的に思いました。

また体験会には、以前より点字に興味を持っていた方々が多かっただけに、積極的に点字に臨み、それにより点字の奥深さを知っていただけた事で、今回の 2 回の点字体験では物足りないというご意見も多数寄せられた事に喜ばしく、また次回も開催できればと考え



参加者の声

・楽しく学ぶことができました！ただもう少し時間が欲しかったです。
・点字の難しさを痛感しました。
・色々な所に点字がある事に気が付きました。

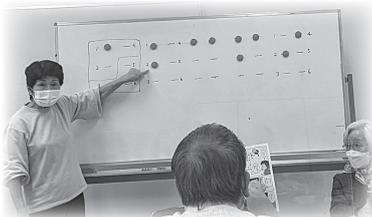
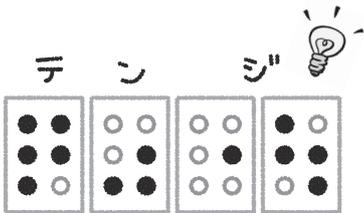
・点字の仕組みと概要が理解できて有意義でした。

・何も分からない初心者に対して丁寧に教えていただきありがとうございます。

・考えていた以上に難しく、難しいからこそ少しずつできた事に達成感がありました。

・以前から点字体験を受けたいと思っていましたので、良かったです。

・まだごく簡単な単語しか読めませんが、一部でも読めるとクイズを解いた時の様な楽しさがあります。



生活訓練事業

声かけ推進活動報告

公益社団法人埼玉県視覚障害者福祉協会 会長

田口 茂たぐち しげる

視覚障害者にとって駅ホームは「欄干のない橋」と例えられるほど危険な場所です。誘導ブ

ロック上の障害物をよけようと、進行方向を勘違いして、

反対側のホームに着いた電車音を自分が乗ろうとした電車音と勘違いしてなど原因はさまざま

ですが、ホームからの転落のリスクがあります。

内方線付き誘導ブロックの敷設、転落防止柵の設置など転落を防ぐ対策は進められています。これらハード面の充実も重要なことですが、ソフト面で「何かお手伝いしましょうか」という



一言が視覚障害者にとって大きな安心感につながります。

そこで、駅を利用する方々へ積極的な声かけを呼びかけよう

と平成30年度から社会参加推進センターの補助を受け「声かけ推進活動」を実施しています。



平成30年度は熊谷駅頭、令和元年度は桶川駅頭でそれぞれ県

交通政策課、市障害福祉課、社会福祉協議会、JR高崎支社、秩父鉄道の方々の協力を得て埼玉県作成の「声かけサポートハンドブック」、当会作成の積極的な声かけを呼びかけるチラシ400部を盲導犬ユーザーとともに配布しました。桶川駅では、桶川市のゆるキャラ「オケちゃん」も配布に協力。大活躍でした。

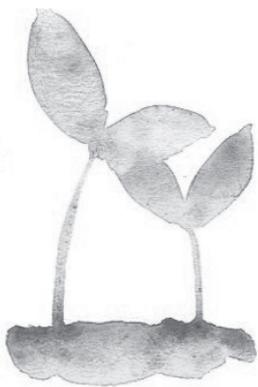
令和2年度、3年度は、コロナウイルス感染防止のため駅頭でのチラシ配布を中止し、県内各鉄道事業者へポスター掲示を依頼、各事業者の快諾を得て当会理事の娘さんのデザインによるポスターを掲示していただきました。

今年度は、コロナウイルス感染も落ち着いていることから県交通政策課、上尾市障害福祉課、上尾市社協、JR上尾駅のみならずとともに上尾駅頭でのチラシ配布を実施し、併せて新たなデザインのポスターを県内各駅

に掲示していただきました。



また、通学で駅を利用する高校生が多いことから令和3年度、4年度は県立高校へもポスターの掲示に協力いただいています。この活動により白杖を持った方、盲導犬を連れている方を見かけたら声をかけてくれる方が一人でも多くなることを期待しています。



グラウンド ゴルフ体験会



埼玉視覚障害者の生活と権利を守る会 事務局長

平野 ひらの 力三 りきぞう

埼視会（埼玉視覚障害者の生活と権利を守る会）のグラウンドゴルフ体験会は、11月6日（日）に県障害者交流センター運動場で行われました。

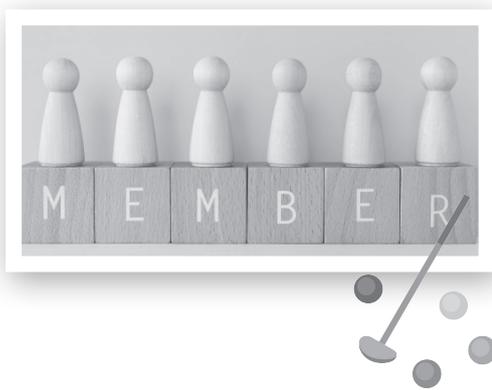
この行事は、障害者レクリエーション活動等実施事業の一環として、毎年実施されてきているものです。

かつては、グラウンドソフトボールやフロアバレーボールといった運動量の大きいスポーツに取り組んでいましたが、会員の高齢化によって参加者が減りチーム編成も難しくなったためスポーツ行事は10年余、行っていませんでした。

そんな折、グラウンドゴルフを経験した会員から「特別な支度もいらず、危険もなく気軽に

取り組めるスポーツなので、会として行いませんか？」との声

が寄せられました。



この提案を受けて、2006年10月に、本会のグラウンドゴルフ体験会は始められたのです。以来、雨で中止になった1年を除き、16回の実施を重ねています。今年実施した11月6日は、晴天で風もなく、絶好の日和でした。

会員の参加は15人と例年並みでしたが、グラウンドゴルフは初めてという人が4人参加されました。開始前は「初めてですから教えてもらいながら」と穏やかでしたが、ゲームが進むにつれ力が入ってきます。

競技の競技たるところなのでしよう。

共通していたのは「都合が合えば来年も参加したい」ということでした。

ボールを打った時の「カーン」という音とクラブから伝わってくる手ごたえが、なんとも言えない開放感を与えてくれます。そんな感覚の余韻が、この行事への再度の参加を促しているのでしょうか。

初参加4人の年長84歳全盲男性のYさんは、打つときに必ず「向きはこれでいいですか？ホールポストまでの距離はどのくらいですか？」と何回も確認していました。

ゲームが終わってから、この4人の方に感想を寄せてもらいました。



埼玉県内
障害者団体の
活動と交流拠点

「団体交流室」の入室団体を募集!



埼玉県障害者交流センター内に障害者団体の活動と交流を深める壁一つない団体交流室があります。平成 2 年 4 月 1 日に設置され、31 年が経過しています。全国的にもあまり例がない身体・精神・知的・難病などさまざまな障害を持つ人、関係者、障害者団体の活動と交流の拠点になっています。NPO 法人埼玉県障害者協議会（県内の障害者団体 36 団体が加盟）が、埼玉県から委託を受けて管理運営をしています。現在専任の職員を置き、机・パソコン等設置して活動している専用団体が 13 団体、ポストだけ置いて活動の所在地にしている利用団体が 8 団体あります。車いすユーザーの団体、聴覚障害の団体、難病患者の団体など様々な団体がコロナ禍でも交流を深め元気に活動しています。

現在専用団体の 1 机が空席になっていますので、ぜひこの機会と一緒に活動を始めてみませんか。ご利用をお待ちしています。

入室した場合、埼玉県障害者協議会に加入して、一緒に活動していただきます

- (1) 団体交流室使用料は、毎月 4000 円です（光熱費含む）。事務机、椅子などは貸与します。
- (2) 製本ができるなど多用途な印刷機、コピー機など事務機器が所定の料金で利用できます。
- (3) 研修旅行、レクリエーション、親睦会などを開催して、交流を深めています。

< 賛助会員募集のコーナー >

私たちは、埼玉県障害者協議会の活動を応援しています

一般社団法人埼玉県障害者スポーツ協会

一般社団法人埼玉県障害者スポーツ協会は、すべての人にスポーツを楽しんで欲しい。「競技」だけでなく、日常的に取り組めるスポーツ活動を応援したい。をスローガンに日々活動しています。障がいがあるなしにかかわらず、健康で元気に生活するために、スポーツの持つ様々な要素・スポーツの力が必要です。今後とも、埼玉県障害者協議会同様ご支援ご協力をお願いいたします。

晃新印刷

〒336-0931 埼玉県さいたま市緑区原山2-23-25
電話 048-887-8006 FAX 048-887-3444

< 賛助会員加入のお願い >

埼玉県障害者協議会の目的に賛同しご協力頂ける、個人及び団体を募集しております。賛助会員には年 8 回の会報の送付、各種研修会・講演会などのご案内を送付いたします。賛助会員の会費は、年一口 2,000 円です。入会をご希望の方は、下記の口座へお振り込み下さい。

< 郵便振替 > 【口座番号】 00130-9-673233

【口座名称】 特定非営利活動法人 埼玉県障害者協議会



編集後記 今号も、「センターだより」をお読みいただきありがとうございます！

相変わらずコロナ禍が続いておりますが、徐々に観光やイベント、外食、学校行事等がコロナ以前に戻りつつあると感じた 2022 年でした。2023 年も引き続き感染予防は継続しながら、何が大切か何を重要視するかを考えながら、日々生活をしていきたいと考えています。

まだまだ寒い日が続きますが体調管理には気を付けましょう。

(太田)